



# 東鍼会報

2013. 05 NO. 258 TŌSHIN KAIHŌ

発行  
公益社団法人  
東京都鍼灸師会  
☎ 03-3985-7501  
FAX.03-3985-7526  
www.harikyu-tokyo.or.jp

## 事業日程表

### 5月

1	水	筋力フォローアップ 新入会員説明会
2	木	鍼灸臨床セミナー
8	水	筋力アップ教室①
9	木	(レセプト締切)
15	水	筋力アップ教室②
18	土	保険予備審査 豊島支部総会

19	日	保険審査会 鍼灸祭 (湯島聖堂)
22	水	筋力アップ教室③ おおつかサロン
23	木	症例検討会
26	日	理事会・会員総会
29	水	筋力アップ教室④

### 6月

5	水	筋力フォローアップ 新入会員説明会
6	木	(レセプト締切) 保険取扱疾患講習会 (学術部)
12	水	筋力アップ教室⑤ 理事会
15	土	保険予備審査
16	日	保険審査会

19	水	筋力アップ教室⑥
23	日	日本鍼灸師会共催学術講習会
26	水	筋力アップ教室⑦ おおつかサロン
27	木	症例検討会
30	日	江戸川：被災時研修

### 7月

3	水	筋力アップ教室講義 新入会員説明会
4	木	(レセプト締切) 保険取扱疾患講習会 (学術部)
10	水	筋力アップ教室⑧ 理事会
13	土	保険予備審査
14	日	保険審査会
17	水	筋力アップ教室⑨

20	土	療養費取扱者講習会 (前期)
24	水	筋力アップ教室講義 おおつかサロン
25	木	症例検討会
28	日	日本鍼灸師会共催学術講習会
31	水	筋力アップ教室⑩

支部活動の掲載について――「支部活動の日時」本部が把握している範囲で掲載しています。早めのご連絡をお願いいたします。事業日程表への掲載は、事務局までご連絡ください。(開始時間についてはご確認ください。)



## ご挨拶

～公益社団法人の認定にあたって～

公益社団法人東京都鍼灸師会 会長 高田 常雄

本会は、公益認定法等の施行による公益法人制度改革を踏まえ、これまで鋭意検討・協議をして参りましたが、平成25年3月25日、東京都知事より公益社団法人の認定を受け、4月1日より「公益社団法人 東京都鍼灸師会」へ移行し、新たな一步を踏み出すことになりました。

単に鍼灸医療を提供しているだけでは、公益性があると認められるのが難しいとされておりましたが、本会では“公益とは何か”、“公益法人として何をなすべきか”を常に考えて、学術事業・普及事業を中心に公益活動を実践して参りました。その実績が評価されて、このたび公益社団法人として認定されたものです。

公益社団法人のメリットとしては、名称独占や社会的信頼性の向上、税務上の優遇措置などが挙げられますが、何よりも本会が名実ともに社会に認知された公益法人であること、また鍼灸医療を通して社会に貢献できる鍼灸専門団体であること、さらに本会の会員が実績に裏打ちされた学識と医術を保持しているレベルの高い鍼灸師であること、などが認定された大きな意義であろうと思います。

新定款では、「公益目的事業」として以下のものを掲げています。

- (1) 鍼灸学術の振作昂揚（しんさくこうよう）に関する事業
- (2) 鍼灸学術の医学的研究に関する事業
- (3) 鍼灸業務の振興に関する事業
- (4) 鍼灸師の資質向上に関する事業
- (5) 鍼灸師の養成に関する事業
- (6) 高齢者の福祉の増進に関する事業
- (7) その他本会の目的を達成するために必要な事業

今後は新制度による公益社団法人として、諸先輩方の経験の集積による鍼灸技術を継承しつつ、東洋伝統医療の特色である人間をトータルで捉える視点から、今まで以上に上記の公益目的事業に沿った法人運営に全力を傾倒して参ります。

会員の皆様におかれては、今後とも倍旧のご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

※振作＝物事の勢いを盛んにすること

## 役員選挙に関する告示

「役員を選任に関する規則」第9条にもとづき、役員（理事・監事）の選挙について、下記のとおり告示する。

- 選挙日：平成25年5月26日（日） 会員総会において実施
- 立候補届出期間：平成23年4月12日（金）から5月13日（月）まで

平成25年4月1日

公益社団法人 東京都鍼灸師会  
選挙管理委員会

平成25年4月1日

会員各位

公益社団法人 東京都鍼灸師会  
選挙管理委員会  
委員長代行 金子 國明

### 役員立候補の届出について（通知）

上記に告示したとおり、来る5月26日（日）に開催予定の平成25年度会員総会において、公益社団法人 東京都鍼灸師会の理事・監事の役員選挙が行われます。

立候補される方は、4月12日（金）から5月13日（月）までの間に、別掲第1号様式により事務局まで届け出られるようお願いいたします。

なお、立候補にあたっては、写真（パスポートサイズ）及び所信表明（100字以内）が必要となります。届出用紙の請求等の詳細については、事務局にご照会下さい。

〔役員の定数〕

理事 18名

監事 3名

（立候補者が定数を越えた場合に選挙となります。）

# 新入会員のご紹介

組 織 部 (平成25年 3月13日現在)

## 【新入会員の紹介】

氏 名	住 所	電話番号	ランク	支 部
高 橋 博 昭	〒145-0065 大田区東雪谷3-31-1 クレール石川台1F「高橋鍼灸治療院」	03-3720-1225	A	大 田
橋 元 千 幸	〒103-0013 中央区日本橋人形町2-10-3 「鍼灸マッサージ 藤倉治療院」	03-3666-3619	A	中 央



高橋 博昭(大田)



橋元 千幸(中央)

## 【住所その他の変更】

氏 名	変 更 内 容	電話番号	支 部
漆 崎 優 子	(施術所) 〒140-0013 品川区南大井3-33-1 ライオンズマンション大森 第7 201号	03-3766-0076	品 川
森 秀 夫	(施術所) 〒180-0004 武蔵野市吉祥寺本町1-4-11 ライオンズステーションプラザ吉祥寺902号	—	澁 谷
大 口 昌 代	(住所) 〒144-0052 大田区蒲田3-23-8 蒲田ビル2F	—	大 田
武 川 佳代子	(電話番号の変更)	03-3721-6466	大 田
小 川 邦 雄	(施術所) 〒105-0004 港区新橋1-5-5 国際善隣会館8F	03-6228-5958	中 央
前 田 薫	(支部変更) 品川支部 → 港支部	—	品 川
宮 内 瑞 恵	(住所) 〒150-0013 渋谷区恵比寿3-4-5	080-3013-7533	澁 谷
梅 宮 三 郎	(氏名・ランク変更) 梅宮三郎 → 矢野三郎 Aランク → 特Bランク	—	港

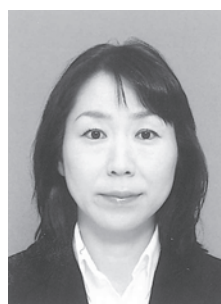
## 【退会者のお知らせ】

氏名	ランク	支部	氏名	ランク	支部
亀田英恵	A	杉並	西山京子	A	三多摩北
酒井篤史	A	品川	伊澤智子	A	江戸川
片桐敬三	A	台東	森尚子	B	新宿
古川悟子	A	渋谷	庄司光康	B	武蔵野三鷹
齊藤俊輝	B	新宿			

## 新規採用職員の紹介

「このたび、4月1日より事務局の経理担当として勤務させていただきますことになりました道中<sup>みちなか</sup>有子<sup>ゆうこ</sup>と申します。華道と茶道をたしなむ撫子でございます。一日も早く業務に慣れ、皆様のお役に立てるよう努力いたしますので、ご指導の程よろしくお願いいたします。」(道中有子)

また、療養費の審査・請求業務で非常勤職員の「福島正子」が採用されましたので、こちらもよろしくお願いたします。(事務局長)



道中 有子(常勤)



福島 正子(非常勤)

※前任の伊藤信子は3月末で定年退職となりました。長年大変お世話になり、ありがとうございました。

なお、伊藤は引き継ぎのため5月まで事務局におります。(事務局長)

## 【会員名簿の訂正】

41ページ

杉並支部 岩元 健朗 先生

(誤) 〒167-0023 東京都杉並区上井草1-2-19 ハーベスト井荻1F

(正) 〒167-0023 東京都杉並区上井草1-23-19 ハーベスト井荻1F



## 保険部からのお知らせ

### 「はり・きゅう療養費の算定基準の改定について」

いつも療養費取扱いに御協力を頂き、誠に有難うございます。

標記につきまして、3月29日に厚生労働省より下記の通り発表がありました。

なお、5月1日より初検料、施術料及び往療料（基本額）の料金の改定が実施されます。

詳細につきましては当会HPをご参照ください。

#### 【改定内容】

	現 行	引上額	改定後
初検料（1術のみ）	1,405円	105円	1,510円
初検料（2術）	1,455円	105円	1,560円
施術料（1術のみ）	1,195円	35円	1,230円
施術料（2術）	1,495円	5円	1,500円

- 往療料（基本額）1,860円→1,800円
- 今後は、支給申請書に下記の項目も記載すること。
  - ・ 申請者の自宅郵便番号、連絡先電話番号
  - ・ 施術者の保健所登録（施術所開設・出張専門）

#### 【施行期日】

- 平成25年5月1日より



## 第1回 在宅鍼灸医療を推進するための会 実施報告

在宅鍼灸医療を推進するための会 松浦正人



- 1・既に行われている在宅鍼灸医療の状況を把握すること
- 2・在宅鍼灸医療と他の医療・介護関係者とのリンク
- 3・在宅鍼灸医療の社会的認知度向上

上記の項目は在宅鍼灸医療を推進するための会の設立目的です。

今回の開催については会報（3月号）や東京都鍼灸師会のホームページなどで通知させていただきました。

平成25年4月14日(日)、29名（表明は37名・当日欠席は8名）で日本鍼灸会館の2階講堂において第一回目の会が開催されました。

以下は第一回目の「会」の内容です。

- 1・会の目的など説明
- 2・高田常雄会長による挨拶と「在宅鍼灸・在宅医療の重要性」についての講話
- 3・アンケートの結果報告
  - ① 参加表明された方々に行った事前アンケート「在宅鍼灸についてのアンケート」
  - ② 第15回在宅医学大会のために実施された「在宅鍼灸についてのアンケート」（3月30日に愛媛県松山市で開催されたもの）

#### 4・グループワーク

在宅鍼灸医療を行う上での鍼灸・鍼灸師の問題点と対応方法、他職種（医師・コメディカル・ケアマネ・介護職など）との問題点と対応方法などをテーマに活発な議論が行われました。

ドクターを含めてコメディカル、厚生労働省も在宅医療の重要性を認識し取り組みを行っています。この会では在宅での鍼灸医療の可能性を多くの鍼灸師と一緒に考えていきたいと考えています。

今年度はあと3回（次回は7月の予定）開催を計画しています。

ホームページや会報などで通知させていただきます。会員・非会員を問わず多くの方々の参加をお待ちしています。ご一緒に傾向と対策を考えていきましょう。

## 議 事 録

### 社団法人東京都鍼灸師会 平成25年通常(予算)総会 議事録

◎日時：平成25年2月10日(日) 13:00~14:30

◎場所：日本鍼灸会館 2F会議室

◇議案：第一号議案 平成25年度事業計画案  
第二号議案 平成25年度収支予算案  
第三号議案 定款の一部改正について  
第四号議案 規程の制定について

◇司会：岩元健朗(総務部長)

◇出席者：27名

◇出席理事：高田常雄、伊集院克、佐藤直史、  
岩元健朗、一ノ瀬宏、有馬太郎、  
天野寛敏、森野一巳、呉 仁隆、  
青木マリ、鹿野和彦、横山季史、  
芝田武司、邊田幸藏、関口知次、  
松浦正人 計16名

◎開会の辞 副会長 伊集院克

◎会長挨拶 会 長 高田常雄

(挨拶は略)

[議長選出は司会者一任により小池英義氏(渋谷支部)を指名。議事録署名人には小林潤一郎氏(葛飾支部)及び田村憲彦氏(板橋支部)を指名。書記は事務局。]

### 【議 事】

○小池英義議長：本日の参加状況を報告する。正会員700名のうち、本日の出席者は25名、また欠席者のうち委任状提出者は476名、委任状なしが1名、計502名となっており、議決に関わる数は501名である。総会成立に必要な1/2は350名、それに定款改正に必要な2/3の数は467名となっている。したがって、総会の成立に必要な数及び定款改正に必要な数のいずれも確保できていることを報告する。(※遅参者2名で最終出席者数27名)  
それでは、第一号議案「平成25年度事業計画案」について会長より説明する。

<高田常雄会長から第一号議案について説明>

○増田眞彦氏(三多摩東)：青年女性部会の事業だが、「日鍼会全国集会への参加及び運営協力」と「青年女性部会総会の開催」の2つの事業が廃止となっている。その理由を説明してほしい。

○横山季史理事(青年女性部会長)：いずれも経費

削減の観点から廃止するものである。

○増田氏(三多摩東)：全国集会に協力しないということで大丈夫なのか。

○横山理事(青年女性部会長)：来年の全国集会の開催場所は岡山であるが、基本的にはブロック単位の参加で用が足りるので、関東ブロックでしっかり協力していきたい。

○小林潤一郎氏(葛飾)：9ページに「在宅鍼灸医療を推進するための会」が新たに挙がっているが、学術部とか保険部とか既存の組織の枠を超えて推進していくのが望ましいと思うがどうか。また昨年未だ葛飾区で都議の補欠選挙があったが、候補者は在宅医療を推進するとしている。こうした状況に鍼灸師としてもアピールする必要があるのではないか。

○高田会長：在宅鍼灸医療は全国的にも師会単位で取り組んでいるところはないので進めていきたいが、皆さんの協力が欠かせない。鍼灸師の領域を広げるためにも参加をお願いしたい。加えて、これからは他のいろんな業種の方とも連携を進めていくことができるような鍼灸師を育てていかないといけない。

○松浦正人理事(介護予防委員会委員長)：この事業では、まず現状の在宅鍼灸医療というのがどうなっているのか、どういう貢献ができるかということを知りたい。次にどうやって地域に入っていくかを検討したい。そのため3月の会報で会員の参加を広く呼び掛け、4月には検討会議を開きたいと考えている。

○増田氏(三多摩東)：文化部会の新年会だが、今年は会場の規模を縮小して開催され、良かったのではないと思う。ただし、来賓の扱いが非常に雑だった。帰る際には必ず三役の誰かがお見送りをすべきだったと思う。開催場所は良かったが最後の詰めが甘い。

○高田会長：ご意見として承る。

○小池議長：ほかに発言がなければ採決に入る。  
第一号議案「平成25年度事業計画案」について賛成の方は拍手をお願いしたい。 <拍手>

○小池議長：拍手多数と認め(過半数)、第一号議案は承認された。

次に第二号議案「平成25年度収支予算案」について一ノ瀬会計部長より説明がある。

<一ノ瀬宏理事(会計部長)から第二号議案について説明>



- 小池議長：質疑に入る。挙手をお願いしたい。
- 増田氏（三多摩東）：2点伺いたい。「補助金等収入」の内訳の東京都委託金と豊島区委託金はそれぞれいくらなのか。特に豊島区委託金の使い道はどうなっているのか。あと、組織部の名簿作成費はどのくらいなのか。
- 高田会長：東京都の委託金は徐々に減ってきており24万円ほどである。豊島区からの委託金は筋力アップ教室の事業で東京都鍼灸師会が中心で行なっており、額は毎年少しずつ変わるが130万円程度である。参加者は豊島区が募集し豊島区民に限定されるが、毎回約20名参加している。経費はこの事業に関わる介護予防運動指導員の鍼灸師の交通費や活動費に充てている。
- 増田氏（三多摩東）：支出項目の「医療保険事業」の「介護予防」にまるまる使われているということか。
- 高田会長：そのとおりである。
- 増田氏（三多摩東）：会員名簿についてはいろいろ広告を載せているが、名簿の作成費はどのくらいかかるのか。また広告収入はいかほどか。
- 佐藤直史副会長：作成費は80万円を考えている。
- 山中利道事務局長：広告料は昨年作成した実績から32万円を見込んでいる。
- 増田氏（三多摩東）：広告料でペイできるやり方もあるので、本部からのお金をなるべく使わないで作成するという広告セールスも必要ではないか。また、名簿の記載事項や形、名簿が必要か否かとか、作成にあたってはいろいろリサーチすることも検討すべきではないか。
- 小林潤一郎氏（葛飾）：収入の部をみると入会者を30人と見込んでいるが、退会者をいかに減らすか、また新規の入会者をいかに増やすかが重要だ。その方策の例として東鍼会のホームページから会員のホームページへリンクする方法をやるべきである。検索する場合、東鍼会のホームページは強いホームページであるので、リンクしている会員のホームページも強くなり、非会員のホームページとの違いが出る。こうしたお金をかけない方法で会員としてのメリットが享受できるようなことを是非考えるべきである。
- 伊集院副会長：現在はリンクを保留にしているが、ご意見に沿うように業者とも相談したい。
- 高田会長：会員の減少は日鍼会でも悩んでいる全国的な問題だ。ここ数年は減少もやむを得ないと考えているが、それをくい止めたるためにも今のようない提言をいただきたい。
- 小池議長：そのほかご質問・ご意見がなければ第二号議案「平成25年度収支予算案」について採決を行う。賛成の方は拍手をお願いしたい。
- <拍手>
- 小池議長：拍手多数と認め（過半数）、第二号議案は承認された。
- 次に第三号議案「定款の一部改正」について高田会長より説明する。
- 高田会長：昨年の総会の際、新定款の附則のところでは「2 本会の最初の代表理事は、〇〇〇〇とし」という表現で、名前を明記せずにご承認をいただいていた。そこで改めて名前を入れて承認をしていただきたいのでお諮りするものである。
- 増田氏（三多摩東）：「本会の最初の会長は、…」とあるが、「最初の」という文言は必要なのか。
- 高田会長：モデル定款に合わせたものなのでご諒解いただきたい。
- 小池議長：では第三号議案についてご承認いただける方は挙手をお願いしたい。
- <挙手>
- 小池議長：2/3以上の賛成と認められるので、第三号議案は承認された。
- 次に第四号議案「規程の制定」について高田会長より説明してもらう。
- <高田会長より「入会及び退会規程案」について条文の読み上げ及び説明>
- 増田氏（三多摩東）：第5条第2項の「資格喪失後5年間は…」の5年間は長いので3年でもいいという感じがするが、5年という期間が通常なのであればかまわない。
- 小池議長：第四号議案についてご承認いただける方は拍手をお願いしたい。
- <拍手>
- 小池議長：拍手多数と認め（過半数）、第四号議案は承認された。以上で議事を終了する。
- (その他意見等)
- 荒井修氏（江戸川）：会員を増やすのはどうしたらよいかということだが、新年会でも学生が手伝って

- くれて非常に好感が持てた。学生をもっと増やすには、臨床セミナーやスポーツ鍼灸といったもので、参加の間口をつくってあげるのはどうか。また学生の入会を勧誘する日をつくるとか、鍼灸師がフォローしてあげるような仕組みを用意すれば、卒業後に不安を抱く学生にとって心強いのではないか。
- 高田会長：東鍼会賞をもらう専門学校15校の学生だが、今年度から一年間東鍼会の講座が無料で受けられるようにしている。日鍼会や師会長会議でも私から提案しているので、同調してくれる師会も出てくるのではないかと思う。賞をもらう学生は優秀なので、一人でも多く将来の東鍼会を支えてくれる鍼灸師を育てていきたい。
- 井坂卓司氏（新宿）：うち支部でも学生を巻き込んで活動を行なっているが、専門学校で教えておられる理事の方々がいるので、学生に東鍼会の鍼灸師をPRしてもらうと食いつきが違う。卒業をしても就職はなかなか難しいし、接骨鍼灸院で働いたり自分の思っているようにならないため、三年ぐらいでこの業界を離れていく人が多い。入会の会員区分としてA、BのほかにCをつくって東鍼会の鍼灸師との関わりを持ってもらい、Cと学生会員を加え四桁の会員数にするように話し合っ進めてもよいのではないか。
- 高田会長：そのとおりなので、皆さんと一緒に考えていきたい。
- 増田氏（三多摩東）：学校の方針があるので、専任の人に勧誘させるのは難しいのではないか。ただ、私は年1回学校に特別講演ということで行くのだが、その時に学会と業団は違うということ、それに自分は東鍼会に入っていることを必ず言うことにしている。講演に行く時には、肩書きに東鍼会という文言を入れるべきである。あと、学生に接して感じることは、鍼を実際打つのに困っているというよりは、どうやって開業したらよいのかということに悩んでいる。過去に青年部長をやっていたときに100人以上の学生を集めたことがあるが、それは開業間もない鍼灸師と中堅の鍼灸師、それに一流のところでは働いている鍼灸師を呼んで話をしてもらったのが関心を呼んだ。技術的なものは学会に任せておけばいいが、就職とか開業とかに悩んでいる学生に東鍼会から手厚く働きかけをしてもよいのではないか。小さいことでも
- よいから青年部で主体的に取り組んでもらいたい。
- 田村憲彦氏（板橋）：地元では医師会の難病連携医療チームから声をかけられ、往診や治療もさせてもらっている。保険を使って往診に行くケースが多いが、医師や看護師、PT・OTから見て、患者がどういう経過を辿っているのか分かるようなツールがほしいと感じている。学術と保険が連携して他業種の方も分かりやすいような評価ができるようになればいいのではと思う。東鍼会に入れば保険を利用した場合に他業種の人にも分かるような評価を出せるということになれば、入会の魅力にもなるのではないか。保険の場合、3か月ごとに医師の再同意が必要だが、その際医師にとっても分かりやすい評価が提示できれば、東鍼会が信頼されて医師から安心して同意書を出してもらえるようになるのではないか。
- 高田会長：東鍼会はそのように職能団体として努力していかなければならないし、在宅鍼灸への取り組みも意識が変わってきているので、医師に対してもしっかり説明できるような鍼灸師になっていかなければならない。東鍼会は危機を迎えているので、真剣に考えなくてはならないので、是非ご協力をいただきたい。
- 天野寛敏理事（広報部長）：広報部では会報を2つに分け、会員への情報発信と都民への普及啓発に努めている。学術と保険のコラボという話が出たが、難病への対応に四苦八苦している鍼灸師もいるので、是非連携を進めていってほしい。
- 関口知次理事（保険部長）：今月から保険での往療の実績を集計していくので、そのデータを活用してほしい。
- 増田氏（三多摩東）：多くの課題が山積だが、それらを理事の方々ばかりに負担させるのではなく、一般会員からも理事会に提案をあげられるような方法がほしいと思う。ネット上でもよいが、何か目安箱のようなものがあればいいので、ファックス、電話等で受け止めることができれば多くの意見が集まるのではないか。
- 浦山久昌氏（大田）：今提案があったが、事務局にメールをすればそれが理事会にあがってきていると思うので、今でも開かれていると言えるのではないか。
- 小池英義氏（渋谷）：私自身マッサージの学校に

二十数年行っているが、15年ほど前から運動器疾患の検査というのを授業に取り入れている。そこで東鍼会の講座に行ってみてはどうかと学生に勧めている。それで東鍼会に来るとやはり鍼免許の資格を取ろうということになって、ひいては会に入ろうという人も出てきている。今度公益法人になるということなので、マッサージだけの人も東鍼会の講習に参加しやすくなるようなので良かったと思っている。

○岩元健朗理事（総務部長）：多くのご意見をいただいたが、これで総会を閉会とする。

◎閉会の辞 副会長 佐藤直史

本総会の議決を証明するため、議長及び議事録署名人が署名捺印する。

平成25年2月10日

議長（小池英義）

署名

㊞

議事録署名人（小林潤一郎）

署名

㊞

議事録署名人（田村憲彦）

署名

㊞

### 平成25年2月 理事会議事録

◎日時：平成25年2月10日(水) 10:10～11:30

◎場所：日本鍼灸会館2F会議室

◇出席者 16名

〔会 長〕高田常雄

〔副 会 長〕伊集院克、佐藤直史

〔理 事〕

岩元健朗、一ノ瀬宏、有馬太郎、  
天野寛敏、森野一巳、呉 仁隆、  
青木マリ、鹿野和彦、横山季史、  
芝田武司、邊田幸藏、関口知次、  
松浦正人

◇同席者 3名

〔監 事〕浦山久昌、仲田欣司

（事務局）山中利道

◎高田議長挨拶

### 【審議事項】

1. 入会等審査について

◇佐藤副会長より説明 ……<承認>

①入会希望者2名 ②退会申出者5名

③変更4名

2. 予算総会について

◇岩元理事より次第、出欠状況の説明……<了承>

3. 公益申請の進捗状況について

◇高田会長より状況説明 ……<了承>

1月28日正式申請、2月下旬審査

4. 支部長会（後期）の開催について

◇佐藤副会長より日程について説明……<了承>

3月6日(水) 午後7時、於、日本鍼灸会館

5. 都民公開講座について

◇有馬学術部長より日程について説明……<了承>

3月10日(日) 午後1時、於、ユーディエックス・  
ギャラリー（秋葉原）

6. 東鍼会事業スケジュールについて

◇前期スケジュール案について岩元総務部長より説明 ……<了承>

7. 専門学校卒業式及び優秀学生表彰について

◇高田会長より説明 ……<了承>

8. 日鍼会代議員選挙について

◇高田会長より立候補が3名であったことを報告

……<了承>

◎報告事項

1. 新年会実施報告（呉文化部会長）

2. 保険審査会報告（12月審査分）

3. 各部報告

（その他）

○松浦理事：4月14日(日) 午前10時に日本鍼灸会館で在宅鍼灸医療を推進する会議を開くので、会員に呼び掛けをお願いしたい。

○呉理事：文化部会で3月に予定していた懇親会は、日程の関係で中止としたいのでご了解いただきたい。

○天野理事：広報誌は会員向けには「東鍼会報」、一般の普及啓発用は「一鍼たすけ」に分けることとした。個人情報関係もあるので、ホームページに会員専用のページができれば、会報発行の経費は削減できる余地があるので検討願いたい。

○横山理事：理事メールでも流したが、「親子スキンタッチ教室」を今月3回に分けて開催するので

よろしくお願ひしたい。

○関口理事：懸案になっている「療養費取扱手引書」の作成について検討しているが、20ページ弱の冊子発行を予定しているのご了解いただきたい。

以上

## 学 術 部

### 症例検討会からのご報告とお知らせ

3月28日(木)、3月の症例検討会が、午後7時30分から日本鍼灸会館に於いて行われました。症例は「変形性膝関節症に対する筋力アップ運動指導について」(武内 潔氏、豊島)、「イレウスによる心窩部痛と腹部膨満の鍼灸処置」(加島 郁雄氏、千代田)の2症例が、臨床のコツは、「鍼灸不適合疾患の対応について」と題し、岩元 健朗氏(杉並)による講義が行われました。座長は小池 英義氏(渋谷)にご担当いただきました。

武内氏の症例は、64才、女性で、左膝関節の痛みで来院しました。症例は、散歩や社交ダンス、スクワット運動をするなど、自身への健康意識が高いが、不正確なトレーニング法により膝関節に負荷をかけ続け障害を起こしたと推察し、鍼灸治療の他、運動プログラムを提示し行ってもらった結果、約4ヶ月で筋力ともに改善が見られたというものでした。武内氏は、介護予防運動指導員として、当会でやっている筋力アップ教室でも活躍されており、筋力アップが運動器疾患への改善につながるというエビデンスを、さらに裏付けた症例でした。

加島氏の症例は、75才、女性で、昨夜から続く心窩部痛と腹部膨満を訴えて来院しました。症例は20年前に胃癌のため胃の5分の4を切除して以来、2度ほど癒着性腸閉塞で入院したことがあり、今回も昨夜ピーナツを食べて以降発症することや身体所見から、腸閉塞と診断し、すぐに医療機関へ行くことを勧めました。

しかし症例はその前に鍼灸治療を強く希望したこと、発症から12時間経っても症状の激しい増悪がな

く、発熱、頻脈、冷汗、吐気、嘔吐がないことから、氏は鍼灸で症状を楽にできる可能性があると考え、応急処置として鍼灸治療を試みました。

結果として治療中に症状は緩快し、治療直後かかりつけの内科で癒着性腸閉塞と診断され、紹介された緊急外来で腹診のためベッドで横になった直後に便意を催し、トイレで放屁と大量の便で症状はすっかりよくなり腹部の膨満もなくなった。氏は、本症例はたまたまよい結果が出ただけで、腸閉塞は生死に関わる大変緊急性の高い、鍼灸不適合疾患であることから、決して真似をしてほしくない。どうしても治療したい場合は、必ず精査をした上で行うことが肝要である、と最後に結んでいました。

岩元氏の講義は、鍼灸臨床における適応判定の条件の検討、さらに不適合疾患の鑑別と鍼灸院経営とのかかわりについて、というものでした。鍼灸師は、自身のためにも、また鍼灸治療の社会認知のためにも、しっかりとした鑑別能力と対応力を学習していかなければならないことを実感できる講義でした。

次回の症例検討会は4月25日(木)午後7時30分からとなります。座長を南上 亮氏(渋谷)にご担当いただき、折原 瑛哲氏(板橋)、小池 英義氏(渋谷)に症例をご報告いただきます。演題は東京都鍼灸師会のホームページからご確認ください。学術部の行事日程もアップしておりますので、併せて宜しくお願いいたします。

症例報告は貴重な臨床体験であり、体験から多くのことを学ぶことが出来ます。多数のご参加をお待ち申し上げます。

学術部長 有馬 太郎



## 保険取扱い疾患講習会のご報告とお知らせ

保険取扱い疾患講習会を4月4日(木)午後7時から日本鍼灸会館2階講堂において開催しました。



今年度より昨年度の臨床セミナーではなく「保険取扱い疾患講習会」と会の名前を変えての一回目となります。

今回の講習会は3部構成となっております、

1. 保険部 小林潤一郎氏による「はり・きゅう保険(療養費)の取扱い方」
2. 学術部 橋本成正氏(埼玉県師会)による「腰痛の問診」
3. 学術部 天崎正典氏(港支部)による「腰痛の診察法①」の講義をしていただきました。

まず初めの保険部 小林潤一郎氏による「はり・きゅう保険(療養費)の取扱い方は、「療養の給付とは」から始まり種類や償還払いについてのご説明の後、

はり・きゅうの療養費支給の要件

- ① 慢性病であって、医師による適当な治療手段のないもの(必ずしも慢性期に至らなくても良い)
- ② 医学的な見地から、はり師・きゅう師の施術を受けることを医師が認め、同意した場合

慢性病の具体例とその位置づけ

- ・6疾患等とは、神経症、リウマチ、頸腕症候群、五十肩、腰痛症、頸椎捻挫後症候群など
- ・医師の同意により、これら6疾患等と確認できれ

ば、個別に判断することなく、要件を満たしているものとして、療養費の支給対象として支給しても良い

- ・その他の疾患について支給の適否は各保険者が個別に判断する
- ・支給期間と再同意についての注意事項(併用の禁止等)
- ・はり・きゅう施術料金と往療料金について

療養費の支給申請方法

- ・施術者や東鍼会が代理で受取る場合
- ・保険者の種類
- ・東鍼会を通じて申請するメリット
- ・東鍼会 療養費取扱い者になるには  
についてご講義いただきました。

次に保険取扱い疾患講習会として4月～6月までの「腰痛症」シリーズの初月として橋本成正氏(埼玉県師会)の「腰痛症の問診」

はじめに

- ・カルテ記載の際の注意点として共通認識できる医学用語の使用について
- ・鍼灸師以外の書類には東洋医学の用語使用は避ける
- ・ペインスケールの使用や日常生活動作の評価
- ・鍼灸臨床とは

単に治療だけでなく、鍼灸の適応なのかどうかの鑑別、予後の推定、患者対応、生活指導、経過観察を含めている

とご説明いただいた後に問診について、

「主訴」

患者が訴える最も主要な自覚症状を表現したもの

「現病歴」

- ・病気の物語について、いつ何をしていたどこがどのようになって、どのような経過をたどり、どのような診断や治療を受けどうなって来院されたのか
- ・現症状について、今どこがどのような動作でどれくらい痛むのか
- ・生活状況として仕事やスポーツ、アルコール摂取
- ・他の疾患として、既往歴(解決している現症状と関係ない疾患)や家族歴(遺伝疾患など内臓疾患の関連痛疑う情報として)

### 「腰痛をきたす不適応除外のポイント」

- ・ 内臓の問題、腫瘍性の痛み、血管の問題、中心性のヘルニアの特徴
  - ・ 適応を常に学ぶこと
  - ・ 不適応疾患を除外できない場合はまず医療機関への受診を勧めること
  - ・ 何よりも患者さんの安全を第一に考えること
- とご講義いただきました。

### 天崎正典氏（港支部）による「腰痛症の診察法①」

DVDを用い注意点を確認しながら参加者2名1組で

- ・ 側彎の有無
- ・ 前彎の状況
- ・ 階段変形の有無
- ・ 前屈痛の有無
- ・ 側屈痛の有無
- ・ 後屈痛の有無
- ・ 股関節の内旋、外旋での痛みの有無
- ・ ニュートンテスト
- ・ 叩打痛の有無

これらについて指導員による指導の下一つ一つ動作や立ち位置の確認を行い、腰痛チャートへの記入を行いました。

今回は58名の方がご参加くださり会場がほぼ満席状態でとても活気のある講習会となりました。

### 次回の臨床セミナーは5月9日(木)

内容は「腰痛症の診察法②」と「腰痛症の病態」

今回できなかった診察法の残りや腰はどのような構造でできていて、腰痛はどのようにして起きるのか、また、診察法でどの検査法が陽性だとどんな疾患が疑われるのかをご講義いただきます。

皆様のご参加をお待ちしております。

当講習会は保険取り扱い疾患を正しく理解し鑑別能力を高めることを目的としております。高い鑑別能力は患者さまへの信頼につながります。経験の浅い方は正確な手技の獲得や臨床のヒント探しに、ベテランの方は臨床能力の再確認などにご利用頂ければと考えております。

参加費は500円で第1木曜日午後7時30分から9

時。日本鍼灸会館2階講堂で行っております。どうぞお気軽にご参加ください。1疾患につき3ヵ月を1クール全3回となっております。開催疾患については当会のHPでスケジュールをご確認ください。

学術部臨床セミナー実行委員 草間 健二

## 介護予防委員会

### 筋力アップ教室

豊島区受託事業「筋力アップ教室」の第4回同窓会を3/27(水)に開催いたしました。

この同窓会とは――過去に実施した「筋力アップ教室」に参加され、14回コースを修了された参加者を対象に東京都鍼灸師会独自のプログラムとして一昨年からは開始されているものです。

今回は今まで教室に参加頂いた102名の参加者にご案内を出状しました。当日はあいにく小雨模様で気温が低いにもかかわらず30名（男性7名、女性23名）の方にとっても元気にご参加いただきました。

### 高齢者の健康余命を延ばす強い要因として

(東京都健康長寿医療センター研究所のデータ)

- ① 力が強い事
- ② バランス能力が高い事
- ③ 歩行速度が速い事
- ④ 血中アルブミン値が高い事 (3.9~4.9g/dl)
- ⑤ 活発な仕事や社会活動、健康底評価が良い事が挙げられます。

### 一方健康余命を短縮する強い要因として

- ① 睡眠時間が長い事
  - ② 咀嚼力が落ちる事
  - ③ 去一年入院したことがある事
  - ④ 喫煙習慣がある事
  - ⑤ うつ傾向がある事
  - ⑥ 性疾患がある事
- などが挙げられます。



現在実施している「筋力アップ教室」は地域住民の高齢者で要介護・要支援を受けていない方を対象に運動機能の維持・改善を目的に行っています。

具体的には

- ① 階段を手すりや壁をつたわずに昇る。
- ② 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がる。
- ③ 15分位続けて歩く。
- ④ 転ばないようにバランス力を高める。等です。

高齢者の人口比率が増大し続けています。いつまでも「イキイキ生活」を送れるように介護予防委員会はスタッフ一丸となってお手伝いしています。

下記は参加者6名+スタッフ1名のグループワークの発表内容抜粋です。

- ・最近、運動をしていないので運動不足になり筋力アップ教室の有難さを感じた。
- ・1日6,000歩のウォーキングを継続している。最近、速度が遅くなってきたので速くなるように努力している。
- ・出来る範囲で運動を行っている。病は気からで運動で克服するように目標を持っている。
- ・自宅では運動はしないけど、機会があると出かけて参加している。
- ・テレビなどで運動の知識や食事・栄養の研究をしている。
- ・家では、運動をしていないので筋力アップ教室に参加したい。
- ・1日6,000歩のウォーキングを行っている。老人会の活動に参加している。
- ・膝関節痛のため、プールに通って水中歩行訓練を行っている。

- ・教室が終わると自分ではなかなか運動出来ない。痛風になった。
- ・30数年ぶりに引越したが、業者の若者の動きを見て若いと言うのはすごいなと思った。
- ・台所に立った時にスクワットをするようにしている。スクワットは椅子も必要ないのでやりやすい。
- ・教室終了後も続けたいので豊島区主催でなくても鍼灸師会館で今の講師で月1～2回教室を開いて欲しい。あまり高いと困るが受講料払っても参加したい。
- ・この1ヶ月車生活をしてほとんど歩かなかった。教室に参加していた時より太ももの筋肉が減ったと感じる。筋肉のありがたみを感じた。
- ・1人暮らしなので人と接する機会が少なく、声が出にくくなっている。のどの調子が悪く受診したら“あまり声を使わないで様子見るように”と言われたが自分では声を出した方が良く感じている。
- ・脳いきいき教室やらくらく体操などに参加し、あちらこちら外出している。



- \*自分ではなかなか運動出来ないので定期的に継続して参加出来る場が欲しいというご意見は全員の方のご希望でした。
- ・「介護予防」「高齢症候群「筋力アップ運動」に興味・御関心のある方ぜひ一度見学にいらして見て下さい。開催時期は東鍼会HPで確認して下さい。

介護予防委員会 武内 潔

## 支部だより

### 北支部



3月9日(土) 天ぷら「あら川」

「新春の集い」を開催致しました。日本鍼灸師会前会長：相馬先生、花川：北区長、和田宗春：都議会議員、林：北区柔道接骨師会会長。来賓の方々にもお越しいただき北支部会員は11名出席し盛況でした。

北支部 高橋 聖

### 三多摩北支部

学術講習会「肩こりと不定愁訴」

3月23日(土) 19:00～ 於国分寺労政会館

東京衛生病院に長らく勤務されておりました勅使河原新一先生に講演をお願いしました。

長年病院で培われた鍼灸技術を披露され、個別に指導していただきましたので大変有意義な学習会になりました。



「肩こり」は病名と異なり、いろいろな疾患のその多い症状であること。

整形外科領域をはじめ、内科・眼科・耳鼻咽喉科・精神神経科疾患の愁訴が、筋血行異常や疼痛を形成して、治療後一時的に快方に向かう時もあるが、難事性を伴うときもあるので、しっかりと鍼灸師の可能な範囲で病態の把握と鑑別診断をすべきである。特に急性期には、多くの項目の運動機能検出の診断や、過度の刺激の治療は禁忌で、改善できない場合は、いさぎよく医師の画像診断に任せることを学びました。

「肩こり」実技では、肩の頸部の過緊張と発痛点は、特に抗重力筋群の僧帽筋・肩甲挙筋・脊柱起立筋らに好発的に現れる索状硬結タント・バンド、トリガーポイント(引き金)となり発痛点が、特に天柱・肩中兪・肩外兪・膏盲・厥陰兪の周辺に形成しやすい。その部位に鍼の軸索反射を優位にする治療法で、三稜鍼(金と銀)による散鍼法・ダイオード提鍼法など、かつて学んだ恩師の木下式CRA 交差鍼が気胸を起こしやすい頸肩背部には「安全で有効性の高い」ことを学びました。

三多摩北支部長 邊田 幸藏

### 親子スキンタッチ教室の感想

2月20日(水)に、世田谷区久が原児童館の行事として定着した感のある標記の教室に参加させていただきました。

高齢者対象の「介護予防筋力アップ教室」(豊島区委託事業)を開催して数年経ちますが、「親子スキンタッチ教室」の参加者は若いお母さんと赤ちゃん(一歳未満)で「高齢者対象の教室」とは異なるが賑やかで楽しい雰囲気を感じられました。

親子スキンタッチ教室と介護予防筋力アップ教室は、対象者の年齢層が正反対で彼らに提供する鍼灸サービスは人の全人生にかかわることが可能で、色々な形で地域社会に貢献できるまさに「ゆりかごから墓場まで」の健康増進・福祉医療サービスと実感しました。

講師先生(林真紀子・目黒区)の実技指導・講和もスムーズでそれ自体が臨床に活用できると感じられるものでした。会員の皆様も一度は見学されてはいかがでしょうか?

介護予防委員会 松浦 正人



# 第15回 日本在宅医学会大会 補足

国立健康長寿医療センター内科総合診療部長：遠藤英俊医師の講演

テーマ「在宅医療における認知症診療のコツ」

## 認知症について

1. 早期発見・早期治療の意義
  - ① 認知症の進行を遅延 ② 日常生活動作能力(ADL)維持 ③ 介護者の介護時間・見守り時間の低減 ④ 医療費・介護費用の低減
2. 診断手法
  - ① 問診 ② 神経心理検査 ③ MRI・CT ④ SPECTなど  
{研究中} アミロイドイメージング・髄液のバイオマーカー
3. 鑑別すべき状態
  - ① 正常 ② うつ等精神疾患 ③ 軽度認知障害 (MCI) ④ 認知症—アルツハイマー病・血管性認知症・レビー小体型認知症・前頭側頭葉変性症 ⑤ 脳腫瘍 ⑥ 慢性硬膜下血腫 ⑦ 内分泌・代謝疾患

(質問したいこと — 正常圧水頭症が認知症から削除されていた。想像はつくが直接お聞きしたい)
4. 医療目標
  - ① 生活機能の一日でも長い維持 ② 周辺症状の緩和 ③ 家族の介護負担の軽減
5. FASTによるアルツハイマー型認知症：重症度のアセスメント
  - ① 正 常
  - ② 年 相 応 — 物の置き忘れなど。
  - ③ 境界状態 — 熟練を要する仕事の場面で「機能低下」が同僚によって指摘される。  
新しい場所に旅行することが困難。
  - ④ 軽 度：アルツハイマー型認知症 — 夕食に客を招く段取り、家計管理、買物に支障。
  - ⑤ 中 等 度 // — 介助なしで適切な衣服を選べない。入浴もなだめすかし説得が必要。
  - ⑥ やや高度 // — 不適切着衣。入浴に要介助。入浴を嫌がる。トイレの水を流せない。  
失禁。
  - ⑦ 高 度 // — 最大約6語に限定された言語機能低下。理解しうる語はただ1つの単語。「歩行・着座・笑う」能力の喪失。昏迷・昏睡。

生活習慣病の予防と対応を述べ「運動の必要性」をはじめ 高血圧・糖尿病・高コレステロール血症（脂質異常症）・肥満・喫煙・慢性ストレス・脳卒中・心筋梗塞をあげた。

なお、レビー小体型認知症の初期は、医師でも「うつ」と診断することが多いとあった。

超高齢化時代に突入し、西暦2,100年に日本人口半減予測。高齢化率。

今後「鍼灸にかかる方」の年代・傾向を考えると遠藤英俊先生にご教授願ひ、鍼灸師の立場で出来ることについて御助言をお願いしたいと感じた。

広報部長 天野 寛敏

ベテラン看護師の提言（愛媛大学附属病院・医療福祉支援センターでのアンケートをもとに）

- ① 他機関・他職種と連携する中、チームの一員として「鍼灸・マッサージ師」はいなかった。
- ② 施術同意書は連携室経由で担当医師とやり取りしていたが、医師は「鍼灸・マッサージ師」のことを知らないし、医療保険適応となることも理解していない。
- ③ 顔を見て話す機会がない。話しかけにくい雰囲気。 --- とあった。

{以下、提言 --- 講演内容：スライドテキストの原文を記述}

1. 個々では成果を上げ信頼を得ている。
2. 組織的に取り組み、市民権を得ることで医療チームの一員として認識される。
3. 医療・介護関係者・地域住民に「鍼灸・医療マッサージ」の効果や信頼性について伝える機会を！
4. 鍼灸・マッサージ師ならではの「ホスピタリティ」にあふれた対応で、ほかの医療者の手本に！

以上

## インフォメーション

### 保険取り扱い疾患講習会

日 時：6月6日(木) 19:30～

鍼灸会館2F講堂

会 費：500円

第1シリーズ「腰痛症」の最終回として、模擬患者を立て問診・診察・治療までの実技を行います。

次回は7月4日で、第2シリーズ「変形性膝関節症」がスタートします。

### 症 例 検 討 会

日 時：6月27日(木) 19:30～

鍼灸会館2F講堂

会 費：500円

学術部症例検討会委員による、症例報告2例及び、1例の実技供覧を行います。



## 政治連盟の活動報告

平成25年4月24日(水) 18:00～21:00 ホテルオークラ東京

来る、7月に予定される参議院議員候補：武見敬三氏のセミナーがありました。

{I部} 武見敬三氏と麻生太郎副総理の対談など

{II部} 立候補結団式・激励・決意表明など

{出席者：敬称略} 相馬悦孝・尾澤正義・仲田欣二・宮内律・森野一巳・天野寛敏

松浦正人・呉仁隆・横山季史・南上亮（佐藤直史代理） 報告：高田常雄

## 厚生部

### お祝い

江戸川支部

菅野美香氏 ご結婚 (1月23日)

### お悔やみ

港支部

藺田康敬氏 (母堂) 1月27日逝去 78歳

## 理事会通信

### 鍼灸専門学校卒業式に出席

伊集院副会長

3月8日 日本健康医療専門学校

12日 日本医学柔整鍼灸専門学校

20日 国際鍼灸専門学校

21日 中央医療学園専門学校

佐藤副会長

9日 日本鍼灸理療専門学校

13日 人間総合科学大学鍼灸医療専門学校

岩元総務部長

14日 新宿鍼灸柔整専門学校

浦山監事

19日 東京衛生学園専門学校

## 会長日誌

- 2月3日 日鍼会 「スキルアップ研修in京都」
- 7日 国民のための医療推進機構による取材
- 10日 理事会、予算会議
- 13日 堀田晴美先生打合せ  
(東京都健康長寿医療センター)
- 14日 新開省二先生打合せ  
(東京都健康長寿医療センター)  
東京マラソン結団式
- 17日 茨城県鍼灸師会にて講演
- 22日 日鍼会  
「第8回在宅医療を推進するための会」
- 24日 東京マラソン
- 3月3日 日鍼会 「スキルアップ研修in新潟」
- 6日 支部長会
- 9日 了徳寺学園 卒業式
- 10日 都民公開講座
- 13日 理事会
- 15日 東京医療専門学校 卒業式
- 17日 日鍼会・合同委員会、理事会
- 19日 東京医療福祉専門学校 卒業式  
事務局員面接
- 24日 日鍼会「学術講習会」
- 25日 都庁に公益社団法人認定書の交付
- 26日 日鍼会「介護予防主任運動指導員」
- 27日 会計士 三澤先生との打合せ  
(伊集院副会長、佐藤副会長)
- 30日・31日  
「第15回日本在宅医学会大会in愛媛」  
にて講演



協力会員（広告）募集中

## (公社)東京都鍼灸師会協力会員

株式会社 カ ナ ケ ン 〒225-0002 横浜市青葉区美しが丘2-17-39 TEL:045-901-5471 URL: <a href="http://www.e-kenkou.jp">http://www.e-kenkou.jp</a> E-mail: <a href="mailto:info@kanaken.co.jp">info@kanaken.co.jp</a>	株式会社 明 健 社 〒181-0013 三鷹市下連雀7-6-36 TEL:0422-71-8801 URL: <a href="http://www.meikensha.com">http://www.meikensha.com</a> E-mail: <a href="mailto:l@meikensha.com">l@meikensha.com</a>
(有) 前 田 豊 吉 商 店 〒167-0052 杉並区南荻窪1-22-15 TEL:03-3332-7634 URL: <a href="http://www.needlemaeda.com">http://www.needlemaeda.com</a> E-mail: <a href="mailto:harimaeda@pop01.odn.ne.jp">harimaeda@pop01.odn.ne.jp</a>	株式会社 タ マ レ イ 〒242-0001 大和市下鶴間4383-7 TEL:046-274-8822 E-mail: <a href="mailto:TAMARAY@aol.com">TAMARAY@aol.com</a>

発行者  公益社団法人 東京都鍼灸師会 会長 高田常雄(広報部)

〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-44-14 日本鍼灸会館内

電 話 03-3985-7501 FAX 03-3985-7526

メールアドレス

[info@harikyu-tokyo.or.jp](mailto:info@harikyu-tokyo.or.jp)